中１・理科

別添③

主眼の書き方
A　学習内容（～について）　B　学習活動（〇〇を通して）
C　育成を目指す資質・能力（△△できるようにする）
に沿っている

題　目	光の屈折
主　眼	光が屈折するときの規則性について、光がガラスに入ったり出たりするときの進み方を考える活動を通して、説明できるようにする。
評価規準【観点】	光の屈折に関する現象の中に問題を見出し、目的意識をもって実験を行い、光が屈折するときの規則性について自らの考えを導き、表現している。【科学的な思考・表現】
「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り	〈評価場面〉　実験レポート記入、実験のグループ活動
	〈評価方法〉　実験レポートに考えを記入しているか。
「努力を要する状況」の生徒に対する手立ての工夫	〈予想されるつまずき〉〇レポート記入ができない。〇予想が立てられない。
	〈つまずきに対する手立て（場面，方法等）〉 〇机間指導時に、ヒントカードとして、光が境界面でどのように進むかのパターンをいくつか提示し、選択させる。

付けたい力、評価規準、見取り、手立て、に整合性がある。

＜本時の流れ＞

①めあて
　、課題の把握

②予想

③実験・考察

④まとめ

⑤振り返り

別のボードに示しておく。

めあて・ガラス面を通過する光の進み方を実験で調べよう。

問題：鉛筆は、なぜ、ガラスを通すと切れて見えるようになるのだろうか？

課題　入射光と屈折光の間にはどんな規則性があるだろうか。

予想・ガラス面で折れている。・そのままま っすぐ進んでいく。

1	2	3

グループで作成したボードを貼る。

実験・準備 台形ガラス、用紙、立つ鉛筆

実験図を示す。

結果①

光がガラスに入るとき（※各グループのボードを貼る。）

結果②

光がガラスから出るとき
（※各グループのボードを貼る。）

考察（気づいたこと）

各グループで話し合い、各代表の意見を板書

まとめ

・空気中→ガラス　　入射角＞屈折角
・ガラス→空気中　　入射角＜屈折角

結果①から　　結果②から

一般化した、図①、図②を貼る。

振り返り

今日の授業で学んだこと。さらに深めたい学習について。
※　数名の生徒に、発表させる。

子どもと学習の見通しを共有している

振り返りで、学習の成果を振り返るだけでなく、次時への学びへつなげている

小2・算数

別添④

主眼の書き方
A 学習内容（～について） B 学習活動（〇〇を通して）
C 育成を目指す資質・能力（△△できるようにする）
に沿っている

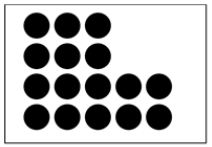
題目：かけ算をつかってもんだいをとこう（6／6時）	
主眼：ものの数を、かけ算が適用できるように、ブロックや図を用いて同じ数ずつのまとまりを作ることで、多様な方法で考え、説明することができる。	
評価規準【観点】ものの数を、かけ算が適用できるように、分けたり移動したりなどの工夫をすることで、かけ算を活用した多様な方法で考えを説明している。【思考・判断・表現】	
「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り	〈評価場面〉同じ数のまとまりで考えるために、ボールの数を分けたり移動したりして考えているか。 ブロックや図に表した考えを説明しているか。 〈評価方法〉行動観察、発表、ノート
「努力を要する状況」の児童に対する手立ての工夫	〈予想されるつまずき〉かけ算の考え方を忘れ、たし算で求めている。 〈つまずきに対する手立て〉「同じ数ずつ」のまとまりを作る必要があることをおさえる。 同じ数にするにはどうすればよいか問いかけ、ブロックを操作させる。

付けたい力、評価規準、学習活動に整合性がある。

㋐かけ算をつかってもんだいをとこう。

かけ算で考えるのはどんなとき？
・「いくつずつ」になっているとき
・同じ数ずつのものがいくつかあるとき

㋑いろいろな考え方で、
ボールの数をもとめましょう。

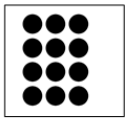


・「いくつずつ」になっていない。
・ちがう数ずつになっている。
・かけ算にならない。

㋒同じ数のまとまりになっていないときは、
どうしたらいいのかな。

〈考え〉

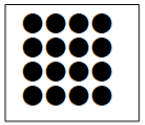
4ずつ



2ずつ

① わけて計算して、答えをたす。
4×3=12
2×2=4　12＋4＝16

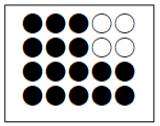
4ずつ



②2こを、ならべかえる。
4×4=16

④2こずつのまとまりで考える。
2×8＝16　2ずつ

4ずつ



③「ぜんぶ入っていたら」から、
ない分を引く。
4×5=20
20－4=16

㋓分けたり、うごかしたり、引いたりして「いくつずつ」を作れば、かけ算をつかって考えられる。

学習活動など

・めあてを書き、これまでの学習を想起させ、かけ算はどんな場面で活用できるかをおさえる。〈5分〉
・異なる数ずつに並んだ●を提示し、課題を書く。〈5分〉
・ブロックを操作し、どのようにすればかけ算が活用できるか考える。
→できたブロックを図に表し、考えを説明する文を書く。〈15分〉
・考え方を発表する。〈10分〉
・本時のまとめをする。〈5分〉
・ふりかえりをする。〈5分〉

学習活動として，振り返りを明確に位置付けている。

別添⑤

小5・国語

「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫	＜予想されるつまずき＞ ・心情を表す文を見つけることができず比べられない（A児） ・きっかけがどこらへんにあるか、見つけられない（B児） ＜つまずきに対する手立て＞ ・事前に、心情や行動を表す言葉や文に線を入れておく。（A児） ・他の場面の、心情を表す言葉や行動をおさえる。（A児） ・団子を食べる前後で、線の色を変えておく。（B児）

予想される個別の児童生徒のつまずきに対して、具体的な手立てを講じている学校の例。

小2・国語

学習活動	1．単元のゴールを確認した後、本時のめあてを確認する。 **めあて　「しかけ絵本」の作り方を知ろう。** 2．ワークシートの書き方を知る。 ○１の場面について、全員でワークシートに位置づけることを通して「気をつける」や「はじめに」・「つぎに」・「そして」などの言葉に着目してまとめると良いことを押さえる。 3．残りの場面をワークシートにまとめる。（自己決定） ○キーワードを教科書から探して、ワークシートの「じゅんじょ」「どうする」「気をつけること」の欄に記入させる。 4．全体で交流する。（自己存在感・共感的人間関係） ○ワークシートをもとにしかけ絵本の作り方を、教科書の該当箇所を示しながら発表させる。 5．振り返りをする。 **ふりかえり　「しかけ絵本」の作り方でわかったことや、作ることができそうかなどを書く。**

授業略案に生徒指導の3機能を位置付けている学校の例。